

講義名	心理学実験基礎				授業形態		
担当教員	池田 曜子／銅直 優子／福田 哲也		開講期・曜日・時間		前期 金曜日 2時間		
			単位数	2	履修開始年次	2年生	ナンバリング・コード
主題と概要							
この授業は、心理学実験を学ぶ際に必要な知識と技術を習得することを目的としており、観察法、調査法、実験法の基礎を学習する。観察法では、観察とはどのようなものかを理解したうえで、結果をまとめる際に必要なグラフや表の特徴と、その作成方法を学ぶ。表や図の記載方法や技術的なスキルの習得に加えて、文献の検索方法と記載方法の習得も目指す。 調査法では、調査とは何かについて理解し、調査目的に合った調査用紙の作成、収集したデータの分析、分析結果の作表と作図について習得する。そして、分析した結果を文章で記述する方法を学ぶことでレポート作成の基礎の習得を目指す。 実験法では、記憶実験に参加してもらい、その時得られたデータを処理してもらう。その後実験とは何かを学習してもらい、自ら参加した記憶実験について理解を深める。最後にレポート作成について指導する。							
到達目標							
①心理学的現象を科学的に証明するための方法の基礎を理解することができるようになる。 ②Excelを活用し、調査用紙、表やグラフが作成できるようになる。 ③実験や調査などの結果の処理が理解できるようになる。 ④心理学実験や調査の報告書の作成の基礎が理解できるようになる。							
提出課題							
授業中に行った実施内容を課題として提出してもらう。							
課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法							
課題作成の際と提出後に修正点等のフィードバックが行われる。							
評価の基準							
授業内での実験取り組みの態度や理解度（50%） 最終課題（50%）							
履修にあたっての注意・助言他							
① 認定心理士資格取得の必修科目である「心理学実験演習」（2年後期開講）を履修する前に、本科目を履修すること。 ② 観察、実験、調査の3種類の課題提出が必須となる。 ③ 1回でも欠席すると、授業内容を理解できなくなる可能性があるため気をつけること。							
教科書							
.使用しない。							
参考図書							
.なし。							

その他		
プリント資料及び参考文献 適宜資料を作成し配付する。		
授業計画		
1．観察法とはなにか（池田） 2．結果の記述に必要な図表の特徴と作成方法（1）：図表の特徴の理解、データの入力（池田） 3．結果の記述に必要な図表の特徴と作成方法（2）：図表の作成（池田） 4．結果の記述に必要な図表の特徴と作成方法（3）：レポートにおける図表の使用方法（池田） 5．文献の検索と記載方法（池田） 6．調査法について：調査計画の立て方と調査用紙の作成①（銅直） 7．調査とデータの整理：調査用紙の作成②とデータの入力（銅直） 8．統計処理と結果の整理：t検定、結果表の作成（銅直） 9．結果の整理：結果図の作成、結果の記述（銅直） 10．レポートの作成準備：目的、仮説、方法、結果の記述方法を学ぶ（銅直） 11．記憶実験の体験（福田） 12．データ整理：ワークシートの使い方、関数の理解、グラフの作成（福田） 13．実験法とは：実験とは何か、独立変数、従属変数、剰余変数の理解（福田） 14．記憶実験の解説（福田） 15．実験の報告：レポート作成の注意点、完成レポートの例示（福田）		
授業形態（アクティブ・ラーニング）		
ア：PBL（課題解決型学習）		イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ：ディスカッション、ディベート		エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション	○	カ：実習、フィールドワーク
キ：その他（A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）		
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間		
当科目は心理学実験の基礎について、受講生が実際に行いながら学ぶものである。そのため、毎回新しい内容に取り組み際には、必要な資料が配付され、その課題について説明がおこなわれる。配付された資料を受講回までに熟読し、理解できない部分を明確にし、定講時には不明な部分について質問ができるようにしておくこと。（2時間） 毎講義で必要な資料が配付され、説明がなされ、課題が出されることとなる。 毎回受講後はその資料をもとに講義内で指示のあった部分について次の講義までに作業を完成させることが重要な復習となる。（2時間） 詳細は、授業内に各担当教員から指示・説明があるのでそれに従うこと。		
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連		
目標①を達成することで、DP①の「社会の仕組みや働き、日常生活と文化、人々の心理など、現実社会の様々なテーマに取り組み、よりよい人間社会を創造することができる」に貢献できる。 目標②③④を達成することで、DP②の「人間の社会性活動、ヒトとヒトに積極的に活用することができる能力となる。 目標の①③④を達成することで、DP③の「心理学の研究法に関する基礎的知識」を身につけ、さまざまな場面直面する人間の心理と行動を科学的に分析し予測するための基礎とすることができる。		
双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述		
双方向授業は実施しない。		
実務経験の有無及び活用		
備考		